

事例研究報告

**特別支援学校高等部の生徒が
作業に集中し、就労に必要な行動を
身につけるための支援**

児童・生徒の実態

☆ 高等部生徒 知的障がい

☆ コミュニケーションの実態

- ・質問や報告は丁寧な言葉でできる
- ・必要以上に質問回数が多い
- ・作業途中にも関わらず、「できました」の報告をすることがある
- ・他の生徒への指示等に衝動的に反応することで作業の効率や正確性が落ち、友だちとトラブルになることがある

保護者の願い

- ・自分の納得する仕事に就き、継続してほしい。
- ・友だちとの関係において、安心できる距離感を保ち、よい関係性を築いてほしい。

教員の願い

- ・適切なタイミングや方法で質問や報告をしてほしい。
- ・作業に集中し、安全・正確に作業を遂行してほしい。
- ・卒業後に円滑な人間関係を築いてほしい。

指導目標と設定の理由

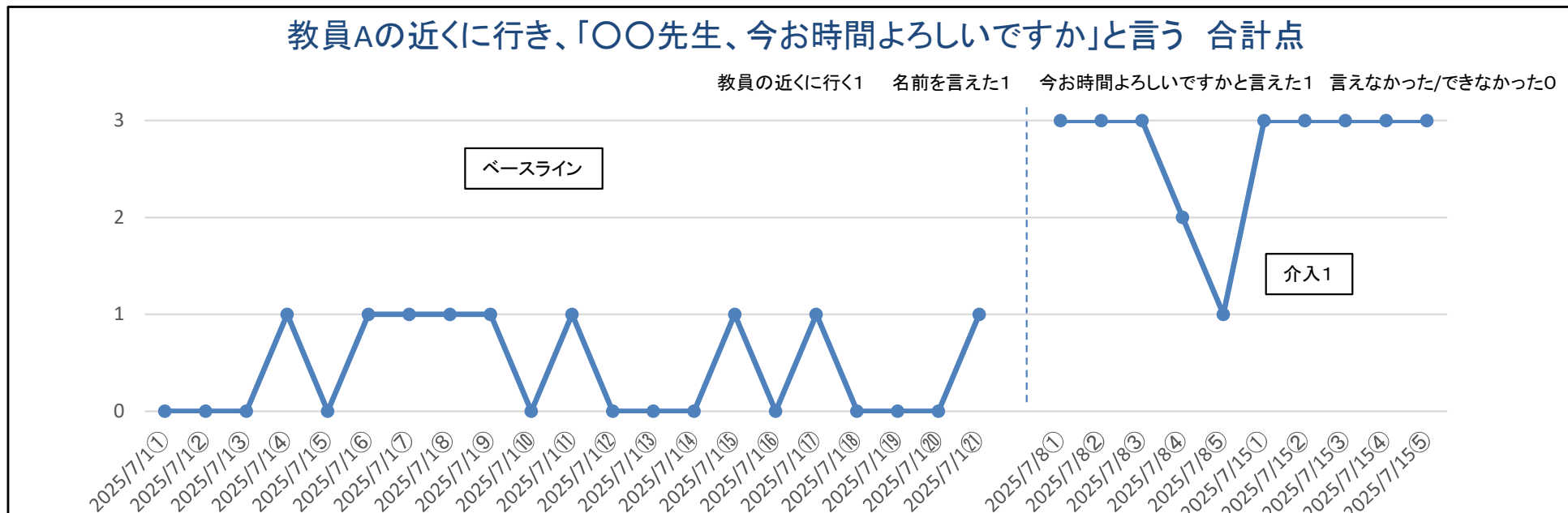
〈目標1〉

質問の際は、教員の近くに行き、
「〇〇先生、今お時間よろしいですか」と許可を得て
から要件を伝える

〈設定の理由〉

授業を観察する中で、教員の名前を呼ばず、教員の
状況(他の生徒の指導中や作業中)に関係なく、衝
動的にまた頻繁に質問することが多々あったため

- 目標1: 教員Aの近くに行き、「〇〇先生、今お時間よろしいですか」と許可を得てから要件を伝える



※教員の近くに行く、名前を言う、今お時間よろしいですかと言うの3項目を各1点として合計点を集計した

・介入1…集団SST実施(1回目)。授業等の自然な場面での指導

SSTの指導: ①遠くから、名前を呼ばず、許可を得ずに教員に話しかける例を見せ「何かおかしくないかな?」と教員が問いかけ、どうしたらいいかを説明する。②教員が生徒役と教員役に分かれ、手本を演技して見せ、質問の仕方(距離、許可)等、ポイントを説明する。③全員でスライドを見ながら声を出して練習する。④よく声が出ることを褒め、実際に使うように言う。⑤授業等の自然な場面で練習し、指導する。

指導目標の現状

〈目標1〉

質問の際は、教員の近くに行き、「〇〇先生、今お時間よろしいですか」と許可を得てから要件を伝える

〈現状〉

質問の手続きを3つ踏むことを定型化することで、相手の様子をうかがうことや一呼吸置くことができ、衝動的に言葉を発したり、行動したりすることが減った。

助言内容

- ・作業場面で集中できるような環境の調整
- ・親切心を良い形で発揮できる場の設定
- ・視覚的なルールの提示
- ・ショートスパンでポジティブなフィードバックができる工夫
- ・セルフモニタリングできる場の設定
- ・作業場面以外で「話をする場面」と「してはいけない場面」の設定と切り替えの練習

助言を受けての見直し

- ・作業場面で集中できるような環境の調整→作業内容・工程を限定、一人で作業をするなど
- ・親切心を良い形で発揮できる場の設定→手助けをする際に許可をとる
- ・視覚的なルールの提示→作業のルールを黒板に貼る
- ・ショートスパンでポジティブなフィードバックができる工夫→1時間毎にチェックシート
- ・セルフモニタリングできる場の設定→自己理解のためのインタビューなど

助言を受けての目標と設定の理由

〈目標2〉

＊「手助けをする際に許可を得る」

作業中、困っている人がいたら

①教員に確認

「〇〇先生、〇〇さんを手伝ってもいいですか」

②本人に確認

「〇〇さん、手伝いましょうか」

と許可を得てから手助けをする。

〈設定の理由〉

作業の様子を観察する中で、作業中でありながら、困っている人がいると作業状況に関係なく、許可をとらず手助けしてしまうことが多々あったため

〈記録方法〉

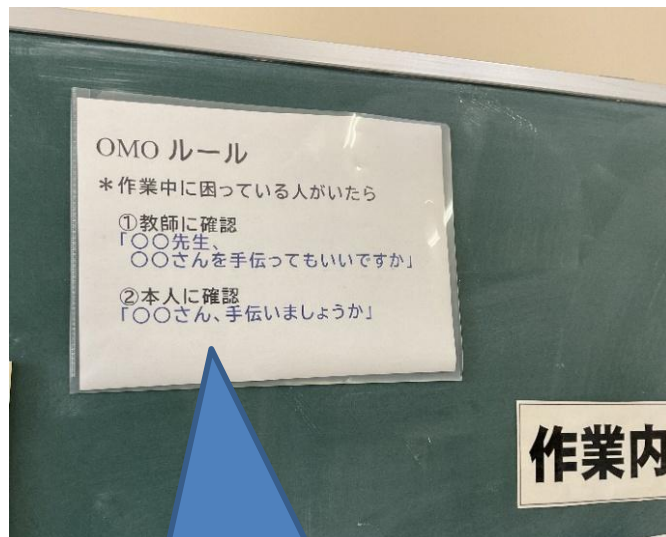
作業中に別の生徒がひとりでは難しい作業を指示される場面を設定
スキルが自発できたら○

それ以外は×

特に記録用紙のようなものは作成せず、タブレット端末や紙にメモしていった。

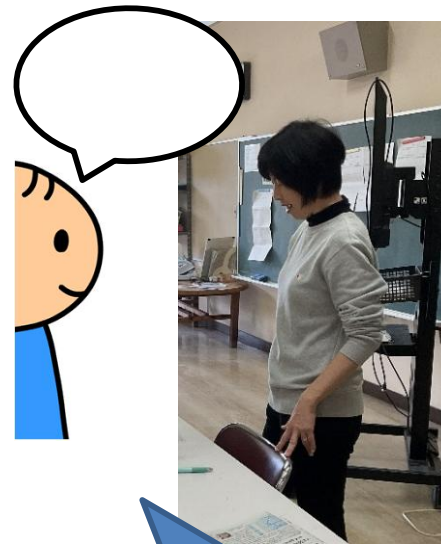
目標2の指導の様子

ルールを提示



黒板にルールを貼り、その時間
に求められる行動を明確化

SSTの練習



全員で言葉の練習をした後、
作業中に目標行動を練習

セルフモニタリング (ショートスパンで)

OMO ルール
* 作業中に困っている人がいたら

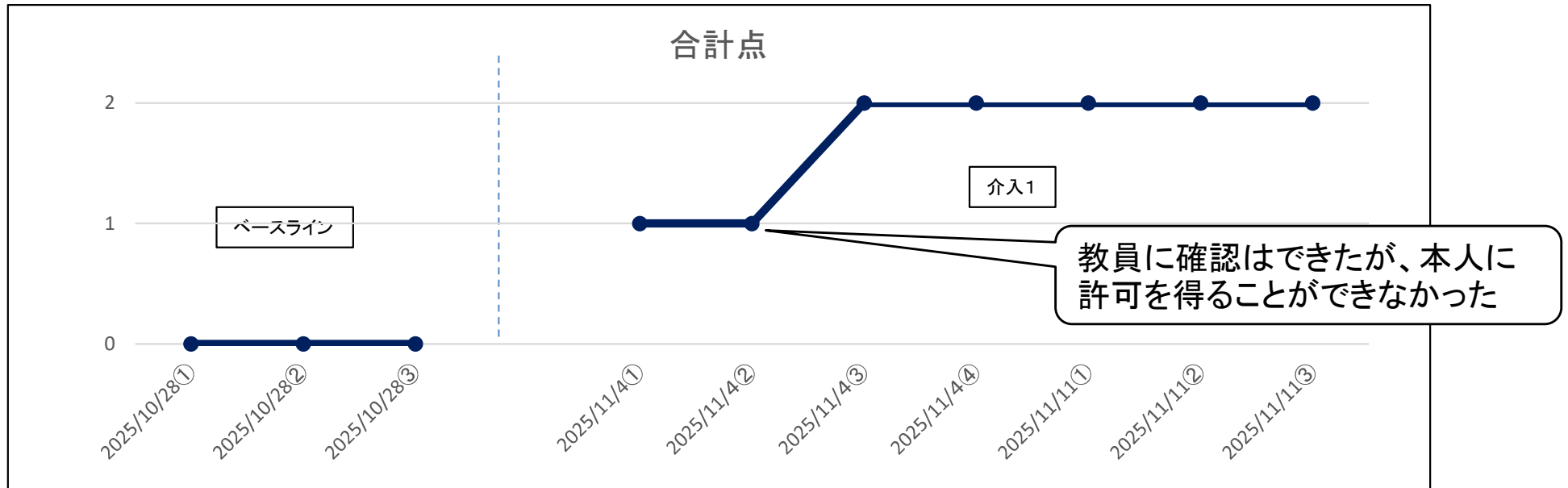
11月11日(火)	2	3	4
①教師に確認 「〇〇先生、〇〇さんを手伝ってもいいですか」	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
②本人に確認 「〇〇さん、手伝いましょうか」	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

2, 3, 4校時のそれぞれの
終了時にセルフモニタリング
の時間を設定

指導の結果 目標2:手助けをする際に許可を得る

- ①教員に「〇〇先生、〇〇さんを手伝ってもいいですか」と確認し、
②本人に「〇〇さん、手伝いましょうか」と許可を得てから手助けをする 合計点

教員に確認 1 本人に許可 1 言えなかった 0



※教員に確認後、本人に許可を得る の2項目を各1点として合計点を集計した

・介入1・・・集団SST実施(1回目)。授業等の自然な場面での指導

SSTの指導:①作業中でありながら、困っている人がいると作業状況に関係なく、衝動的に行動してしまう例を見せ、作業の正確性や効率、また印象はどうかを問い、どうしたらいいかを説明する。②教員が生徒役と教員役に分かれ、手本を演技して見せ、手助けの仕方(確認、許可)等、ポイントを説明する。③全員でスライドを見ながら声を出して練習する。④よく声が出ることを褒め、実際に使うように言う⑤授業等の自然な場面で練習し、指導する。

〈目標3〉

*「指示の復唱をする」

教員が「大事なことを言います」「よく聞いてください」と言った後の指示に対して

「〇〇ですね？」

と確認を得てから作業する

〈設定の理由〉

作業の様子を観察する中で、指示を十分聞かないうちに作業を開始してしまったり、誤解したまま間違った作業をしてしまったりすること等があったため

〈記録方法〉

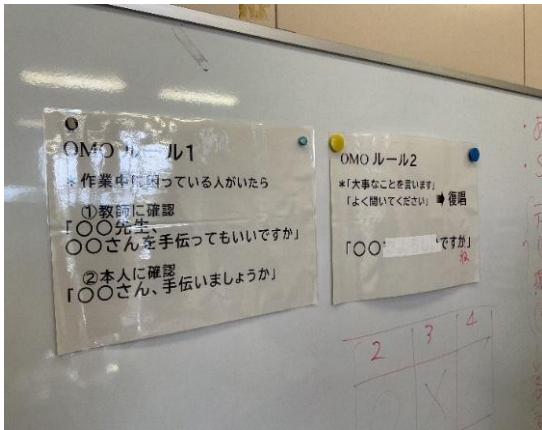
作業中に別の生徒がひとりでは難しい作業を指示される場面を設定
スキルが自発できたら○

それ以外は×

特に記録用紙のようなものは作成せず、タブレット端末や紙にメモしていった。

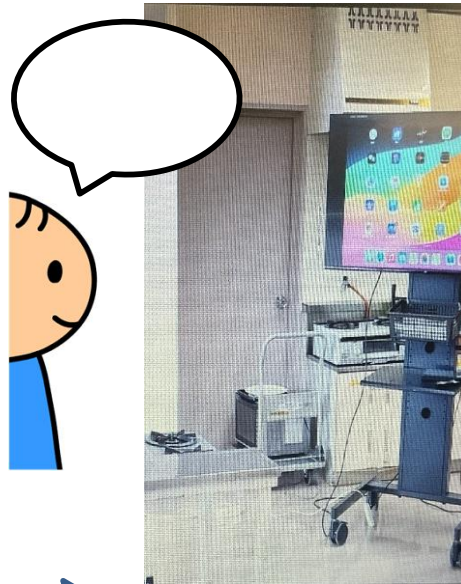
目標3の指導の様子

ルールを提示



目標2, 3を黒板に貼り、
目標行動を明確化

SSTの練習



全員で言葉の練習をした後、
作業中に目標行動を練習

自己チェックシート (セルフモニタリング)

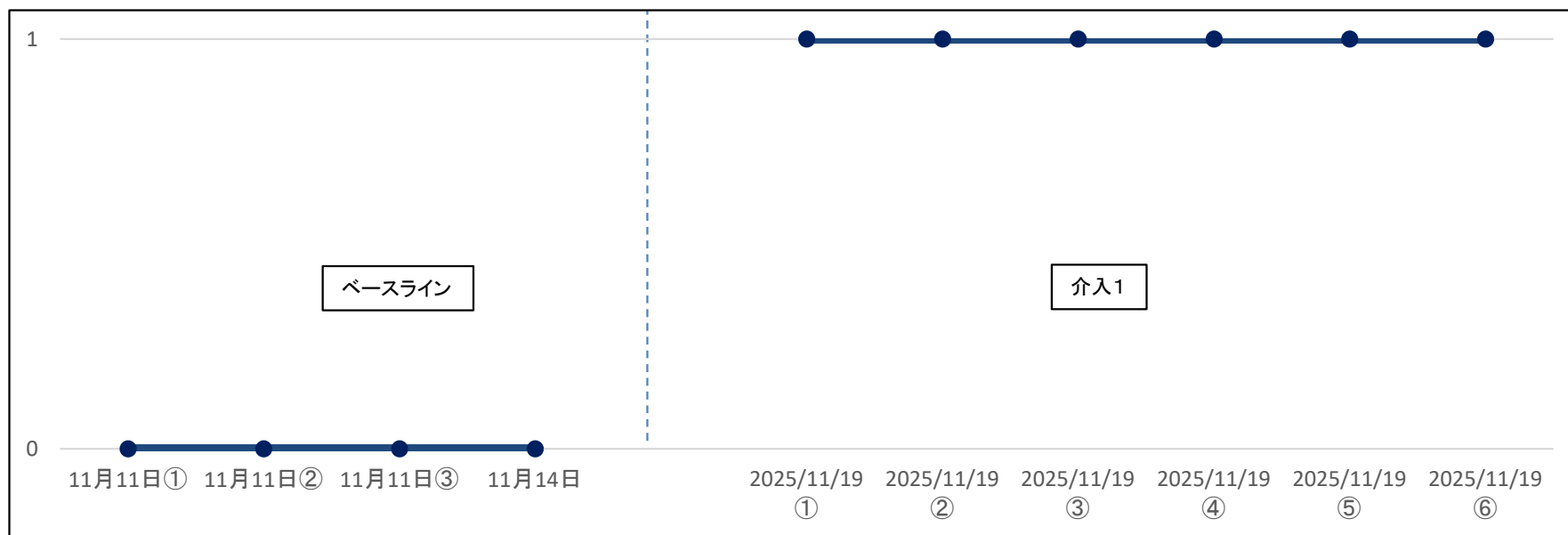
OMOルールチェック表

	2	3	4
11月 18日 (火)			
指示の復唱 「大事なことを言います」「よく聞いてください」			
「〇〇でよろしいですね」	0	0	0

2, 3, 4校時のそれぞれの
終了時にセルフモニタリング
の時間を設定

指導の結果 目標3: 指示の復唱をする

復唱できた 1 言えなかった 0



※教員の指示に対して復唱できたら1点とした

・介入1・・・集団SST実施(1回目)。授業等の自然な場面での指導

SSTの指導: ①教員の指示に対して、最後まで聞かず作業を始めたり、確認をせず作業してしまう例を見せ、作業の正確性や効率はどうかを問い、どうしたらいいかを説明する。②教員が生徒役と教員役に分かれ、手本を演技して見せ、復唱の仕方等、ポイントを説明する。③全員でスライドを見ながら声を出して練習する。④よく声が出ることを褒め、実際に使うように言う⑤授業等の自然な場面で練習し、指導する。

その他の指導

* 作業環境の調整

- ・作業工程を限定
(縫製作業において全工程を行わず、1工程のみを繰り返し行う)
- ・作業内容の限定
(座位作業とし、人との関わりを減らす)
- ・教室内の人数を減らし、席を離す
(教室の人数を4名程度とし、1テーブルに1人ずつ作業)

* 般化場面の指導 (クラス内や就業体験先 等)

- ・美術や他の作業時間、クラス活動の際に自発的に許可を得ることができた。
(「〇〇先生、今お時間よろしいですか」)
- ・就業体験で2回試したが、1回目は復唱せず、2回目は復唱することができた。
(「赤を3枚、青を2枚、ピンクを1枚持ってきて」)

* 自己理解インタビュー (何があれば自分はスキルが発揮できるのか)

- ・薬を飲んだ日と飲まない日の違いを感じる事ができた。
- ・人の動きが見えると気になる。
- ・長時間の作業では目標を忘れるため、気づかせてくれるとわかりやすい

指導の成果

- ・話しかける時や手助けをする前に許可をとったり、復唱をして指示を確認するという新たなスキルの獲得ができた。
- ・SSTや黒板のルール掲示、自己チェックシート等により、すべき行動が明確化され、不適切な行動が減り、適切な行動が増えた。
- ・環境を調整することで成功体験が増え、どうすれば(どのようなものがあれば)適切な行動ができるか等の本人の自己理解を深めるきっかけとなった。
- ・教員がポジティブなフィードバックを共通認識することで不適切な行動や間違いに焦点をあてるのではなく、適切な行動になるような前向きな話し合いができた。

まとめ(今後に向けて)

* 卒業に向けた就業体験先での般化

- ・ルール提示や事前のルール確認
- ・ショートスパンでのセルフモニタリング
(トラブルの予防になるような項目にし、状況に合わせて更新していく)
(項目については、本人の納得のもと、選択制にする)

* 作業場面での適切な行動の日常場面への般化

- ・休憩中などのリラックス場面でも目標を設定し、セルフモニタリングを実施
(セルフモニタリング時間のネーミングの工夫が必要)
例: 垢抜け大作戦、美活Time、メンパ時間 など
(その都度、直前にルールを確認し、意識づける)